

元会長 桜井英記先生を偲ぶ

本会の名誉会員 桜井英記先生には、去る昭和63年2月9日永眠されました。(享年91)

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

筆者が桜井さんに始めてお目にかかったのは昭和9年内務省であった。樋木寛之さんの机が一隅にあり、室の中央に緑の羅紗を張った机が4つ並んで、桜井さんのほか磯谷道一、町田保、五十嵐醇三の面々がひかえて居た。この人達がすべて今は無いとは。とくに桜井さんは病気の噂もなく、余程長生されることと思っていたのに、大層急に、しかも極めて静かに世を去られたのは、誰か高僧の話を聞くような気がするのである。筆者の亡兄は桜井さんと同じ時期に二高に居たが、その話では桜井さんは仙台で相当な荒法師であったらしい。静かな方だという筆者の説に兄は首をひねったのであった。桜井さんご自身が後年語られるには、東京の有名中学で締めつけられて来たものの中には、旧制高校の自由な空気の中で噴煙を擧げる者もあったということであった。

筆者が都市計画の畠に入った昭和9年というのは、都市計画を策定する手法、手続きなど、一応整った頃であった。そして新入りの筆者が関心したことは、この都市計画という新規なものを、先輩たちはよくここまでものにしたものだということであった。5年前都市計画協会のインタビューに応えて桜井さんが述べられたものがある。桜井さんは大正11年に内務省に入られたが、当時どんな仕事をされたかという質問に対し、みんな自分で一生懸命勉強していたと答えて居られる。その勉強の成果が後輩の筆者どもを関心させたに違いないのである。

さて桜井さんは東京に居るために内務省の都市計画局を志望したと言っているが、入られたところは第一技術課で課長は山田博愛さんであった。翌年が関東大震災で、山田さんは復興事業の予算案をづくりに大奮闘されたが、桜井さんたちはその資料つくりに忙殺されたのであった。桜井さんは、山田さんには頭ごなしによく叱られたと語って居られるが、この評判の喧嘩の山田さんのあとは樋木さんで、この方はまた強烈な個性の人であった。桜井さんはこれらの時代を通じ、大人しくして来られたのであったが、時勢は次第に戦時色を帯び思うにまかせぬことになって行くのである。

桜井さんが内務省に居られた時代、一口に云って戦前の都市計画はまだ草創の時代であり、且つ計画部局が事業にタッチすることの極めて少ない時代であった。われわれのようにずっと後輩でもその感が深かった。桜井さんにとって辛抱の時が長かったのである。シナ事変以後は戦争が都市計画を振回し、桜井さんも再々中国に出張



され、最後はビルマで大変苦労された。何故ビルマに行くことになったかのお話も桜井さんのお人柄をよく語るものである。戦後は同級生の森幸太郎さんと都市計画事務所を開設され、都市計画コンサルタントの端緒となられた。また東急の顧問として、かの田園都市線沿線開発の指導をされ、半世紀以上にわたる都市計画生涯の締めくくりと言って居られるのは筆者にとっても感動的である。謹んでご冥福を祈る。

日本都市計画学会名誉会員 松井達夫

略歴

- 明治30年9月19日 東京市本郷区に生れる
大正11年3月 東京帝国大学工学部土木工学科卒
〃 〃 5月 内務省都市計画局に奉職
〃 13年2月 帝都復興院技師
〃 14年8月 内務大臣官房都市計画課（内務技師）
昭和12年5月 約1ヶ年欧米出張
〃 13年5月 上海新都市計画策定のため上海出張（12月まで）
〃 15年7月 広東市都市計画策定のため広東出張（約3ヶ月）
〃 19年7月 陸軍技師（勅任）ラングーンに赴任
〃 21年5月 復員、内務省に復帰
〃 〃 11月 退官
〃 23年11月 桜井・森都市計画事務所創設
〃 39年3月 同事務所の業務を日本技術開発KKに引継ぐ
〃 30年5月 東急電鉄KK企画部顧問
〃 32年11月 東急電鉄KK顧問（50年解嘱）
〃 34年11月 東急建設KK取締役（42年まで）
〃 38年5月 東急ターンパイクKK取締役（46年まで）
〃 38年5月 都市計画学会長（40年まで）
〃 42年11月 獲3等瑞宝章
〃 63年2月7日 埼玉県与野市にて歿、91歳

桜井英記（さくらい ひでき）

松井達夫

(財都市計画協会顧問)

明治30年（1897）9月東京市本郷区に生れ、東京府立1中、旧制第2高等学校を経て、東大土木工学科を大正11年卒業、5月内務省都市計画局第1技術課に奉職、課長は山田博愛氏であった。都市計画の文字通り啓蒙時代であり、ただ勉強が仕事であったという。そ



こへ関東大震災。大正13年2月帝都復興院。14年8月内務大臣官房都市計画課と勤務先は変ったが、その間の1番の仕事は山田課長を助けて復興計画とその事業予算をまとめる資料づくりにあったという。その後官房都市計画課技師として全国都市の計画策定の指導に当ったが、昭和9年の函館の大炎直後に現地に出張し、復興プランをつくり、現在の百万両の夜景のもとを立てた。昭和12年5月から約1ヶ月年欧米出張、多くの資料をもたらした。また13年には上海新都市計画策定のための調査団員として出張、15年には広東市（現在の広州市）都市計画策定のため出張。さらに19年8月にはビルマ政府顧問団（団長小川郷太郎）の一員として陸軍技師（勅任）の資格でラングーンに赴任。捕虜生活まで経験してようやく帰国

出来たのは21年5月であった。そして同年11月内務省を退官することとなる。桜井氏がわが国都市計画コンサルタントの草分けといわれるのは、終戦後いくばくもない23年11月に桜井・森都市計画事務所を創始したことにある。協力者の森幸太郎氏は大学の同級生で、都市計画埼玉地方委員会の技師を勤めて来られた人であった。所員には東京地方委員会で鍛えた人達も顔を揃えていた。しかし創始者は、ハードもソフトもすべて自分達の才覚で作ってゆかねばならず、会社の経営は容易ではなかったと聞く。途中協力者の森氏の逝去もあり、結局39年3月、事務所の業務を日本技術開発株式会社に引継ぐに至る。創始者としての任務を一応果した気分であったろうか。一方東京急行電鉄が田園都市線の開発に本腰を入れ出した昭和30年頃から、桜井氏は同社の顧問に就任、同線沿線の開発計画を20年間にわたって指導した。

本学会への貢献は創立以来のことであるが、昭和32～37年、副会長、38～39年会長に就任。また昭和42年11月には勲3等瑞宝章を受賞した。昭和63年2月7日埼玉県与野市において日課の午睡より覚めず。91才であった。

桜井英記（さくらい ひでき）

略歴（桜井英記）

1897（明治30）年 東京に生まれる
1922（大正11）年 東京帝国大学工学部土木工学科卒
1922（大正11）年 内務省東京計画局第一技術課勤務
1924（大正13）年 帝都復興院技師
1925（大正14）年 内務省大臣官房都市計画課
1937（昭和12）年 欧米出張
1938（昭和13）年 以降上海、広東等に都市計画策定のため出張
1948（昭和23）年 桜井・森都市計画事務所設立
1955（昭和30）年 東京急行電鉄顧問
1956（昭和31）～1962（昭和37）年度日本都市計画学会副会長
1963（昭和38）～1964（昭和39）年度日本都市計画学会会長
1967（昭和42）年 獻三等瑞宝章授与
1988（昭和63）年 逝去

明治30年（1897）9月東京市本郷区に生まれ、東京府立1中、旧制第2高等学校を経て、東大土木工学科を大正11年卒業、5月内務省都市計画局第1技術課に奉職、課長は山田博愛であった。都市計画の文字通り啓蒙時代であり、ただ勉強が仕事であったという。そこへ関東大震災。大正13年2月帝都復興院。14年8月内務大臣官房都市計画課と勤務先は変わったが、その間の1番の仕事は山田課長を助けて復興計画とその事業予算をまとめる資料づくりにあったという。その後官房都市計画課技師として全国都市の計画策定の指導に当たったが、昭和9年の函館の大震災直後に現地に出張し、復興プランをつくり、現在の百万石の夜景のもとを立てた。昭和12年5月から約1ヶ月欧米出張、多くの資料をもたらした。また13年には上海新都市計画策定のための調査団員として出張、15年には広東市（現在の広州市）都市計画策定のため出張。さらに19年8月にはビルマ政府顧問団（団長小川郷太郎）の一員として陸軍技師（勅任）の資格でラグーンに赴任。捕虜生活まで経験してようやく帰国出来たのは21年5月であった。そして同年11月内務省を退官することとなる。桜井がわが国都市計画コンサルタントの草分けといわれる原因是、終戦後いくばくもない23年11月に桜井・森都市計画事務所を創始したことにある。協力者の森幸太郎は大学の同級生で、都市計画埼玉

財都市計画協会名誉会員

松井達夫



桜井英記

地方委員会の技師を勤めて来た人であった。所員には東京地方委員会で鍛えた人達も顔を揃えていた。しかし創始者は、ハードもソフトもすべて自分達の才覚で作ってゆかねばならず、会社の経営は容易ではなかったと聞く。途中協力者の森氏の逝去もあり、結局39年3月、事務所の業務を日本技術開発株式会社に引継ぐに至る。創始者としての任務を一応果たした気分であったろうか。一方東京急行電鉄が田園都市線の開発に本腰を入れ出した昭和30年頃から、桜井は同社の顧問に就任、同線沿線の開発計画を20年間にわたって指導した。

本学会への貢献は創立以来のことであるが、昭和32～37年、副会長、38～39年会長に就任。また昭和42年11月には勲3等瑞宝章を受賞した。昭和63年2月7日埼玉県与野市において日課の午睡より覚めず。91才であった。